

第15回宇宙開発委員会(臨時会議)

議 事 次 第

1. 日 時 昭和60年8月8日(木)
12時30分～12時40分

2. 場 所 宇宙開発委員会会議室

3. 議 題 昭和61年度における宇宙開発関係経費の見積り
方針について

4. 資 料

委15-1 第14回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)

委15-2 昭和61年度における宇宙開発関係経費の見積り
方針(案)

第14回宇宙開発委員会(定例会議)

議 事 要 旨(案)

1. 日 時 昭和60年8月7日(水)
午後2時～2時45分

2. 場 所 宇宙開発委員会会議室

3. 議 題

- (1) 第一部会の審議結果について
- (2) 宇宙基地特別部会の設置等について

4. 資 料

- 委14-1 第13回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)
- 委14-2 宇宙開発委員会第一部会報告書
- 委14-3 宇宙基地特別部会の設置について(案)
- 委14-4 宇宙基地計画特別部会の廃止について(案)

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

“ “

井 上 啓次郎

斎 藤 成 文

大 塚 茂

吉 山 博 吉

説明者

宇宙開発委員会第一部会長

“ 第一部会衛星系分科会長

“ “ 輸送系分科会長

中 口 博

野 村 民 也

武 田 峻

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

“ 長官官房審議官

通商産業省機械情報産業局次長

内 田 勇 夫

川 崎 雅 弘

棚 橋 祐 治

運輸省気象庁総務部長

郵政省通信政策局次長

文部省宇宙科学研究所研究協力課

宇宙開発事業団計画管理部計画管理課

事務局

科学技術庁研究調整局調整課長

“ “ 宇宙企画課長

“ “ 宇宙国際課長

“ “ 宇宙開発課長

(代理:数井)

新 谷 智 人

(代理:前田)

米 沢 充 克

(代理:田中)

秋 元 春 雄

国 井 清 人

松 下 弘

石 井 敏 弘

中 村 方 士

鍵 本 潔

6. 議 事

- (1) 議事要旨の確認について

第13回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(資料委14-1)が
確認された。

- (2) 第一部会の審議結果について

中口 博第一部会長、野村 民也衛星系分科会長、及び 武田 峻
輸送系分科会長より、資料委14-2に基づき、第一部会における審
議結果について説明が行われた。

- (3) 宇宙基地特別部会の設置等について

事務局より、資料委14-3、及び委14-4に基づき説明が行わ
れたのち、原案どおり決定された。

昭和61年度における宇宙開発関係経費の見積り方針(案)

昭和60年8月8日

宇宙開発委員会決定

昭和61年度における宇宙開発関係経費の見積りは、下記の方針に基づいて行う。

1. 開 発

- (1) 日米協力として我が国が衛星の開発を担当し、米国がスペースシャトルを用いた打上げ等を担当して、地球の夜側に存在する長大な磁気圏尾部の構造とダイナミックスに関する観測研究を行うことを目的とする磁気圏観測衛星(GEOTAIL)について、昭和65年度に打ち上げることを目標に開発を行う。
- (2) プラズマ及び電子ビームを放射することにより、オーロラの発光機構、プラズマ中の荷電粒子の運動及び電磁波動の励起等を解明することを目的とする粒子加速装置を用いた宇宙科学実験(SEPAC)について、スペースシャトルに搭載する実験装置を点検、調整の上、昭和61年度に再実験を行う。
- (3) 能動型観測技術の確立を図るとともに、資源探査を主目的に、国土調査、農林漁業、環境保全、防災、沿岸域監視等の観測を行うことを目的とする地球資源衛星1号(ERS-1)について、H-Iロケット(2段式)により、昭和65年度に打ち上げることを目標に開発を行う。
- (4) 放送衛星3号(BS-3a及びBS-3b)は、放送衛星2号(BS-2a及びBS-2b)による放送サービスを引き継ぐこと等を目的とした衛星であるが、放送衛星2号-a(BS-2a)の不具合等の関係で、開発スケジュールが遅れていること及び信頼性が確

保されるよう開発を行う必要があることから、打上げ時期を延期せざるを得ない。このため、放送衛星3号-a(BS-3a)は、昭和63年度から昭和65年度に、放送衛星3号-b(BS-3b)は、昭和65年度から昭和66年度に、それぞれ変更して打ち上げることを目標に、引き続き開発を進める。

- (5) 放送衛星2号(BS-2a及びBS-2b)に係る状況等から、H-Iロケット(2段式)試験機を昭和60年度から昭和61年度に変更して打ち上げることを目標に、また、予備用H-Iロケット(2段式)試験機を昭和61年度から昭和62年度に変更して打ち上げることが可能となるよう、引き続き開発を進める。

また、放送衛星3号(BS-3a及びBS-3b)の開発に係る状況等から、放送衛星3号-a(BS-3a)の打上げ用H-Iロケット(3段式)3号機については、昭和63年度から昭和65年度に変更して打ち上げることを目標に、引き続き開発を進める。

- (6) 1990年代における大型人工衛星打上げ需要に対処するため、H-Iロケットで使用する液酸・液水エンジンの開発成果を踏まえて、第1段及び第2段に液酸・液水エンジンを使用し、これに固体補助ロケット2基を加えた2トン程度の静止衛星打上げ能力を有するH-IIロケットについて、昭和66年度に試験機1号機を打ち上げることを目標に開発を行う。

2. 開発研究

H-IIロケット試験機の性能を確認するとともに1990年代における実用衛星の開発に必要な大型静止三軸衛星バス技術の確立を図り、併せて衛星による固定通信及び移動体通信並びに衛星間通信に関する高度の衛星通信のための技術開発及びその実験を行うことを目的とする技術試験衛星VI型(ETS-VI)について開発研究を行う。

3. 研究

(1) 宇宙実験及び宇宙基地の分野

- ① 第一次材料実験(FMPT)に続き、宇宙基地の運用までに材料、ライフサイエンス、エレクトロニクス等の分野における宇宙環境を利用した実験を行い、これらの技術の進展を図るため、フリーフライヤー、スペースシャトル搭載実験機等の実験手段について研究を行うとともに、実験テーマ等について調査を行う。
- ② 発展段階における宇宙基地構成要素としてのフリーフライヤー、軌道上作業機等について研究を行う。
- ③ 宇宙基地における実験に資するため、人工知能応用技術、微小重力シミュレーション技術等の研究を行う。
- ④ 静止プラットフォームに関する技術等将来の宇宙通信に必要な技術について、宇宙基地を利用した研究開発を実施することを目的として所要の研究を行う。

(2) 人工衛星系共通技術の分野

- ① 衛星の大型化、長寿命化に対応するため、長寿命のスラスタとして、キセノンイオンエンジンの研究を行う。
- ② 我が国が将来多様な宇宙活動を進めていくことが可能となるよう、クラスタ衛星、プラットフォーム等の人工衛星について研究を行う。

(3) 輸送系共通技術の分野

将来の多様な宇宙活動を自主的かつ自在に展開し得るようになるため、宇宙への輸送及び宇宙からの回収を行い得る宇宙往還輸送システムについて研究を行う。

4. 施設の整備

- (1) 地球資源衛星1号(ERS-1)等の大型衛星の開発に必要な熱真空試験、振動試験、音響試験等のための大型試験設備について、

昭和64年度にERS-1等の試験に供することを目標に整備を行う。

- (2) 人工衛星を用いた地球観測システムの研究開発に資するため、フランスの地球観測衛星SPOTによる観測データの国内受信処理設備及び我が国の海洋観測衛星1号(MOS-1)による観測データの国外受信処理設備について、昭和62年度に受信処理を開始することを目標に整備を行う。

5. 関連する施策

- (1) 宇宙開発の分野における国際協力の強化、推進を図るため、アジア太平洋地域等における地域協力プロジェクトの推進を図るための調査検討を行う。
- (2) 我が国の宇宙開発活動の成果の普及を図り、その利用を促進するとともに、宇宙開発に対する国民の理解と協力を得るため、宇宙開発全般にわたり、総合的な普及啓発活動の強化を図る。

6. その他

上記以外については、「宇宙開発計画」(昭和60年3月13日決定)を推進する。

7. 留意すべき事項

人工衛星技術の開発に資するとともに実利用に供することを目的とする人工衛星について、利用の継続性の確保及び総開発経費の軽減等による利用機関の負担の軽減に配慮する。